

日本発の「世界」思想とアジア

2018年9月26日

東郷和彦

京都産業大学教授
世界問題研究所長

本研究をなぜ始めたか？

- 世界政治における地殻変動
- ポスト冷戦期における米国の指導力の衰退と中国の台頭。世界はこのリーダーシップ争いの激震に襲われる。
- 中国は必ず、経済・政治・軍事の三側面だけではなく、文化の側面を加えた「新中華」として発信してくる。
- この時日本は何をいうか？欧米化・民主主義と市場原理、経済大国、外交安保力の強化はある。それだけか？第二のアメリカだけではないはずだ。
- 日本としての国の大本は何か。日本発の世界思想は何か。

なぜ哲学・公共・外交か？

- 哲学＝根。自分自身の哲学への関心・森哲郎先生との出会い。安倍周辺の「戦前の名誉」に疑問あり。
- 公共＝幹。国づくりの政策においてしっかりしていないところは外交ができない。外務省での関心。新しい公共。中谷真憲先生との出会い。
- 外交＝枝。ともあれ自分のやってきたこと。34年の外務省生活の内半分の17年は対ロシア政策。これにもう少し深い基礎を与えたかった。

自分自身の外交哲学は何だったか？



- 東郷茂徳(1882～1950)
- 東条内閣外務大臣(開戦)
- 鈴木内閣外務大臣(終戦)
- 東京裁判で禁固20年、『時代の一面』執筆後病死
- 母(東郷いせ)の遺言(1997年):「外交官として一番大事なことは、決断の時、相手に51をゆずること」